

第45回日本口腔インプラント学会学術大会

第45回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 (第35回中国四国支部学術大会併催)報告

日時：平成27年9月21日(月)～23日(水)

場所：ホテルグランヴィア岡山・岡山コンベンションセンター
岡山シティーミュージアム・岡山シンホニーホール



熱田 互 (東京都)

平成27年9月21日から23日にかけて、連休となったシルバーウィークに岡山にて上記学術大会が開催されました。

会場は駅直結のホテルグランヴィア岡山、岡山コンベンションセンター、岡山シティーミュージアム、岡山シンホニーホールで開催され、岡山駅周辺が学会一色に染まりました。

本会からは、田中譲治会長がシンポジウム「超高齢社会においてインプラントは是か非か？」においてシンポジストとして選ばれ、要介護を見据えての

インプラント治療の問題点と有用性についてご講演されました。

また、一般口演において、「デジタル技術がもたらしたCAD/CAMデンチャーの可能性—磁性アタッチメント専用ミニインプラントを用いて—」をご口演されました。

本会が担当したモーニングセミナーにおいて、エビデンスに基づいてインプラント周囲炎を考える～イエテボリにおけるメンテナンスの実際～をテーマとして、座長として笹谷和伸専務、講師として中



原達郎先生、鈴木佐栄子先生がご講演されました。

その他にも座長として岩野義弘先生、古市嘉秀先生、一般口演として 小嶋榮一先生、窪田弘幸先生、鈴木郁夫先生、水口稔之先生、土肥雅彦先生、森田莊一朗先生、ポスター発表として岩本麻也先生がそれぞれご発表されました。

また、関 啓介先生が第44回日本口腔インプラント学会学術大会でご発表された演題「歯周病既往患者に対するインプラント治療の10年間後向き臨床的検討」が優秀研究発表賞を受賞され、本大会で表彰されましたことを併せてご報告申し上げます。





第44回日本口腔インプラント学会学術大会

優秀研究発表賞 受賞

「歯周病既往患者に対する

インプラント治療の10年間後向き臨床的検討」

関 啓介 (東京都)

この度は第44回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、名誉ある優秀研究発表賞を受賞させていただき大変光栄に存じます。平素よりご指導頂いております田中譲治会長ならびに日本インプラント臨床研究会会員の諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

「歯周病既往患者に対するインプラント治療の10年間後向き臨床的検討」と題した本研究では、予後判断の円滑化を目的として、歯周病既往という因子がインプラント周囲粘膜疾患の発生率に及ぼす影響を調査（対象インプラントは143本、メンテナンス期間は平均5.5年）したところ、歯周炎群は非歯周炎群に比較して周囲粘膜病変を発症するリスクが4.8倍(オッズ比)も高いという結果が得られました。

インプラント治療期間中において、初期段階での



歯周病治療の重要性を再認識するとともに、未知な部分の多いインプラント周囲炎の診断方法や対処法を探る一助となればよいと考えます。